

「竹林の小径」(中世地区)の改修内容

竹林をより身近に楽しめる施設改修

【当初の思想】
 ・北の谷は、溪流を設け、両岸に紅葉樹を多植し、南の谷には、流れをつくり、**回遊路に沿って竹を密植して趣ある竹の庭**とします(「万国博政府出展 日本庭園」より)。
 ・千里の原風景の再生



② ベンチの設置 (破線 緑)

- ・今年度新設ベンチを使用
- ・バリアフリー対応 (AS ショットブラスト舗装)

③ 竹林再生 (破線 赤)

② ベンチの設置 (破線 緑)

- ・今年度新設ベンチの使用
- ・バリアフリー対応 (AS ショットブラスト舗装)

① 竹の追加植栽 (破線 赤)

- ・モウソウチクを植栽 (マダケは、モウソウチクより弱いため使用せず)
- ・早期景観形成のため、穂付きの高さ7~10mのものを使用。(1/24 柴田教授聞き取り)
- ・植付け時に考慮すべき事項
 - ・2年生竹 (地下茎が最も活発) ・地下茎は50cm以上必要
 - ・産地にこだわる必要無いが、地下茎の乾燥や傷み防止より、近場のものが望ましい。
 - ・2月までに植栽 ・支柱高さ配慮
- ・管理時に考慮すべき事項
 - ・初年度の竹は切らない ・乾燥対策として、竹チップなどの敷設
 - ・密度0.4本/m²程度 ・5~6年で入れ替わる間伐管理



奥行きのある竹林+芝生地景観

① 筥保護等による竹林範囲の拡大 (破線 青)

① 園路幅の縮小 (矢印 赤)

- ・幅員4.0m→1.8mに縮小
- ・玉石縁石・ロープ柵の撤去・再利用
- ・舗装は現状As舗装のまま

① 南側園路の改修

- ・園路幅が広く、竹に囲まれている感が薄い
- ・園路沿いの竹のボリューム感が不足
- ・カラスによる竹の更新阻害、乾燥による生育不良



南側園路から東側 南側園路から西側

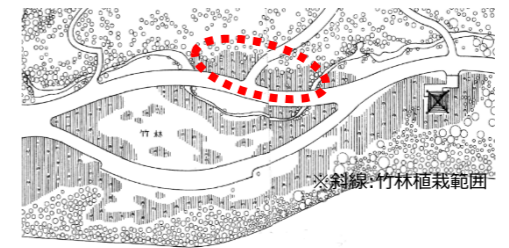
- ・園路幅の縮小
- ・園路沿いに竹の追加植栽
- ・筥保護等による竹林範囲拡大



改修イメージ

②ベンチの設置
 ・竹林をより身近に感じられるように、視点場にベンチを設置する。

③竹林の再生
 ・当初設計から竹林が消失している箇所には、竹を植栽する。



基本設計図面



植栽当初写真

「松の洲浜」(中世地区)の改修内容

松の洲浜を様々な視点場から楽しめる施設改修

【当初の思想】

・泉とともに水源とし、溪流と合わせ水の諸態を創り、**両谷の合流点では、広い洲浜をつつて、日本独特の石庭の起源を思わせる景観**を作り出します。
(「万国博政府出展日本庭園」より)



施工当初

① 藤棚の撤去・改修

・10周年記念事業で設置
・藤棚があることで、西側園路、東側園路からは洲浜が見えにくい
・六角形の形状と角材構造は、中世景観にはそぐわない
(中世に藤棚は存在しない)



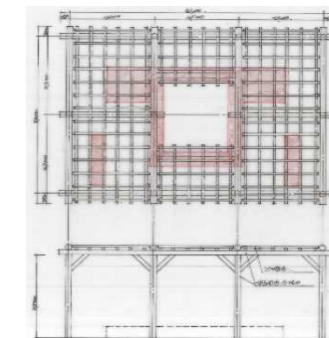
a 南側園路西側からの景観



b 南側園路東側からの景観

○藤棚(西側) : ・酷暑対策や利用実績を考慮し、最小規模(長方形、5.4m×8.1m)で設置
・中世時代で使用されていた丸太材・竹材を使用
・藤棚の下は土系舗装とし、バリアフリー対応を図る。

○藤棚(東側) : 景観障害要因である既設藤棚の撤去



藤棚



イメージ(柱・梁は丸太材、垂木は竹材)

② バリアフリー化の検討

・景観を損ねない範囲で、改修可能なものについてはバリアフリー化すべき
・砂利舗装部の分断が感じられないデザインと素材の選定が必要



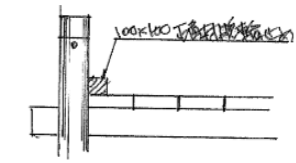
c 木橋・土舗装部



c 砂利舗装部

○南北ルートのバリアフリー化
(南側園路～藤棚(西側)～木橋～北側園路)

1. 脱輪止めの設置
2. 勾配調整・補修
・北側木橋の高上げ(橋脚やり替え)
・土系舗装等の高上げ・補修 など
3. 砂利舗装部のバリアフリー化
⇒比較検討表(P3)参照





木橋脱輪止め



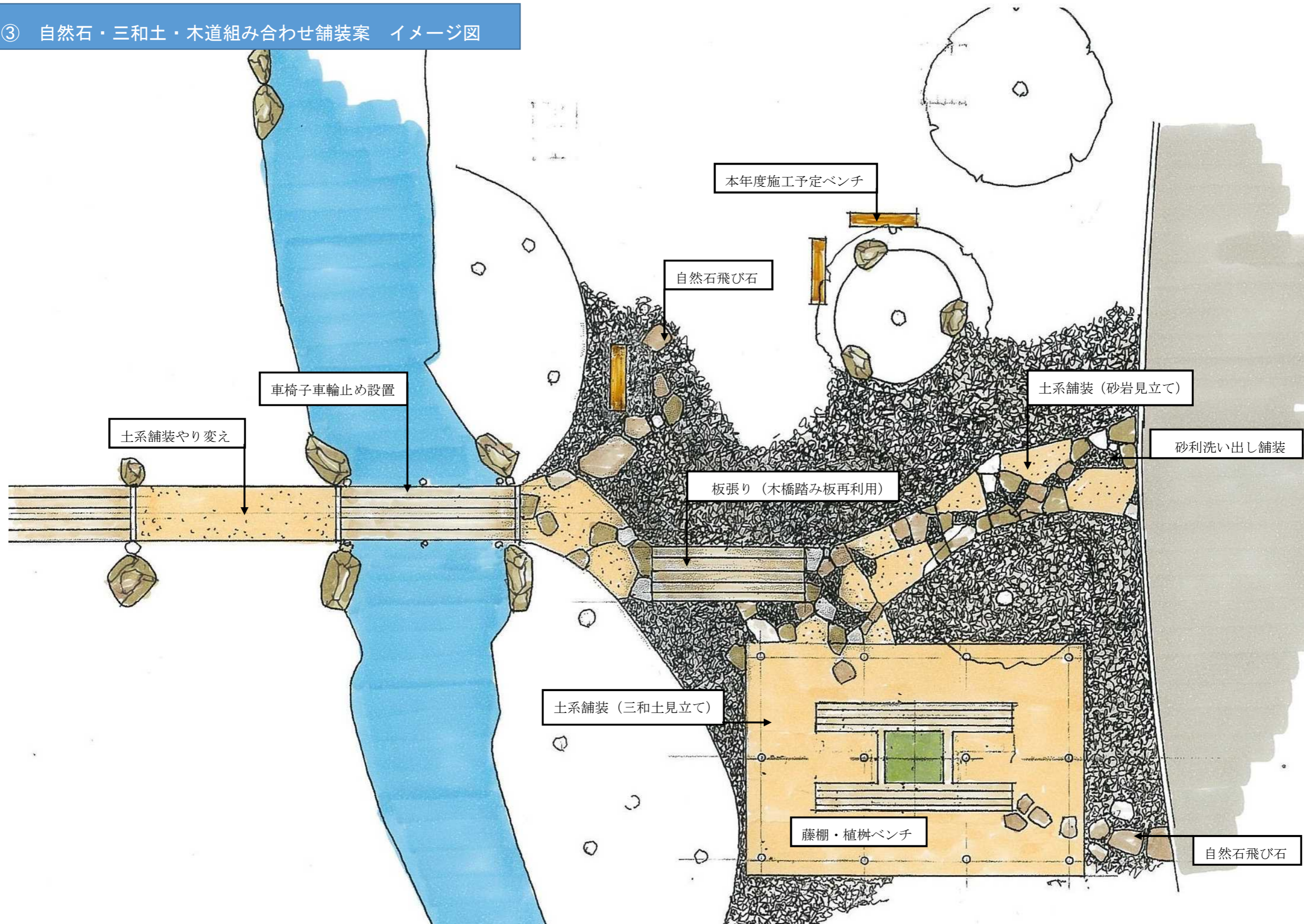
三和土風仕上げ例

日本庭園の魅力向上について（松の洲浜の改修）

○南北ルートへのバリアフリー化に係る比較表

案	内容	断面図	作庭思想	バリアフリー範囲の判り易さ	維持管理面	景観性	整備コスト	
			当時にはなかった工法が露呈していないか。	バリアフリー範囲が判り易いか。	砂利の流出等、舗装環境が変化しないか。	洲浜景観への影響があるか。	整備費コストが安価か。	
案①	砂利薄層舗装 ・W=6.5~12.0m ・砂利の薄層舗装			露呈していない	境界明示が必要	砂利が流出しやすい	砂利が流出すると、路盤が露出する	6,400 円/㎡
案②	丸パイプパネル固定砂利敷き舗装 ・W=6.5~12.0m ・丸パイプパネル（深さ3cm） ・砂利の装てん			露呈していない	境界明示が必要	砂利に埋もれやすい	砂利が流出すると、パイプが露出する	13,500 円/㎡
案③	自然石・土系舗装・木道組合せ舗装 ・W=1.2~1.5m ・自然石、土系舗装、砂利洗出し舗装、板張りの組み合わせ ・土系舗装 飛石部は砂岩見立て 藤棚部は三和土見立て			中世にない工法が一部露呈	境界明示は不要	木部・土系舗装の劣化がある	複数の素材を使用していることで、ルートが際立つ	20,500 円/㎡
案④	自然石樹脂舗装 ・W=1.5~6.5m ・ポーラスコンクリート下地 ・砂利入り樹脂舗装			中世にない工法が露呈	境界明示は不要	紫外線による劣化がある	種石結合樹脂が目立つ	8,500 円/㎡
案⑤	現場発生砂利洗い出し舗装 ・W=1.5~6.5m ・洗い出し舗装（現場発生砂利）			中世にない工法が露呈	境界明示は不要	比較的劣化しにくい	セメント目地が目立つ	15,000 円/㎡

案③ 自然石・三和土・木道組み合わせ舗装案 イメージ図



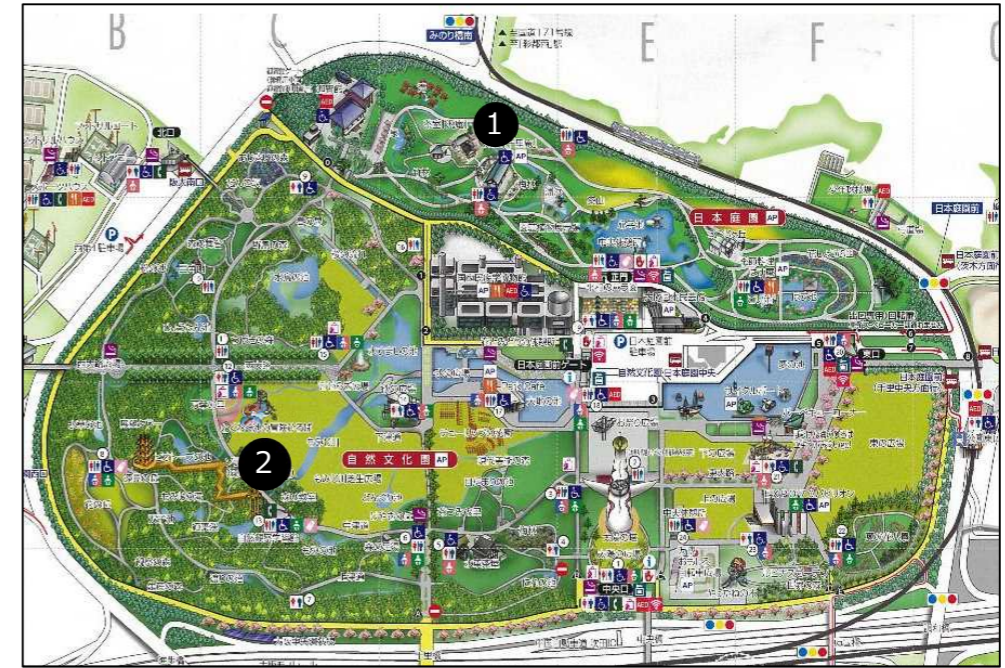
川床の設置について（仮設）

〇概要

- ・日本庭園の魅力向上の取組の1つとして、木漏れ日の滝に川床を設置する計画（「日本庭園改修基本計画」に記載）
- ・大阪工業技術専門学校 大工技能学科との連携し、川床をテーマに卒業制作に取り組む
- ・試行設置期間：2月27日（木）～3月2日（月）、立ち入り禁止措置
⇒5～6月再設置予定（学生が付いた中での利用や来園者アンケートを予定）

〇スケジュール

	2019年						2020年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大阪工業技術専門学校	現地調査	図面・模型作成		プレゼン	材料確保 材料加工・仮組み		製作・組み立て	卒業制作展	卒業
万博記念公園								試行設置	



設置位置図

①日本庭園 木漏れ日の滝 流れ



②もみじ川沿い

